

[基本方向3]

森に親しみ、協働で進める「森林との共生」

施策	主な取組
県民の理解と参加の促進	<ul style="list-style-type: none">● 県民の理解の促進・ 森林や林業に関する情報を、SNSを始めとするさまざまな媒体を通じて発信します。
	<ul style="list-style-type: none">● 県民参加による森づくりの推進・ 「森づくり県民大作戦」への県民の参加を促進するとともに、農林事務所、地域、森づくり団体、企業等が連携したイベントを実施します。・ 「しずおか未来の森サポーター」制度の積極的なPRと、企業のニーズに応じて、NPO法人や森づくり団体とのマッチング支援等を行います。
	<ul style="list-style-type: none">● 森づくり活動や環境教育を行う人材等の養成及び確保・ 森林環境教育指導者養成講座等の開催により環境学習指導員等を養成するとともに、人材バンクへの登録や指導員の活躍の場づくりなどにより、市町による森林環境教育の推進を支援します。
	<ul style="list-style-type: none">● 森林経営管理の合意形成・ 航空レーザ計測等に基づき森林情報の精度向上を進め、地域の森林管理への活用を支援します。・ 市町が森林所有者に対して実施する経営管理の意向調査の支援等、森林経営管理制度を活用した市町の森林整備の取組を促進します。・ 県内4地区で森林県民円卓会議を開催し、森林との共生に関する合意の形成や連携した取組を促進します。



しずおか未来の森サポーター
開所式（富士宮市山北）



伊豆地域森林県民円卓会議
（伊豆市修善寺）

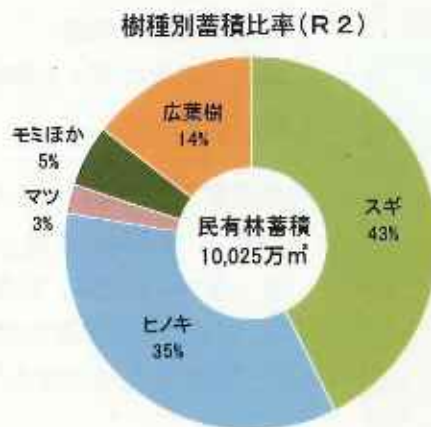
■ 民有林[※]の6割が人工林

民有林のうち59%の約24万haが人工林であり、全国平均の人工林率46%を大きく上回っています。 ※地域森林計画対象森林



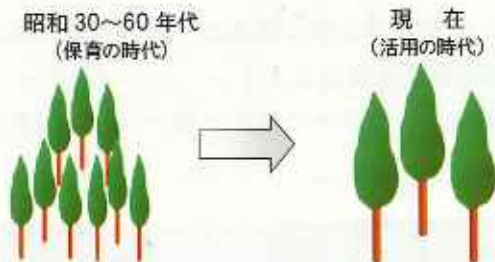
■ 蓄積はスギ・ヒノキの順に多い

人工林を構成するスギ、ヒノキは、他の樹種に比べて単位面積当たりの蓄積量が著しく高くなっています。



■ 森林の大半は活用する時期に

昭和30、40年代に造林された森林は、約50年を経過した現在では立派な森林へと成長し、活用期を迎えています。



スギ・ヒノキ林齢別面積



■ 森林資源の循環利用

林業の採算性の低下から、主伐・再造林面積は大きく減少しました。

「伐って」、「植えて」、「育てる」森林資源の循環の環を構築するため、主伐・再造林の低コスト化が必要です。

民有林造林面積の推移



■森林資源の持続的な供給

森林は、スギ、ヒノキの人工林を中心に県内の木材利用量に対して十分な成長量を有しており、蓄積量が年々増加しています。

森林の成長量以下の木材利用量とすることで、森林資源は持続的に供給することができます。



■森林整備の担い手

森林の整備に従事する林業作業員は、平成7年の1,334人をピークに減少が続いていましたが、近年は横ばい傾向となっています。

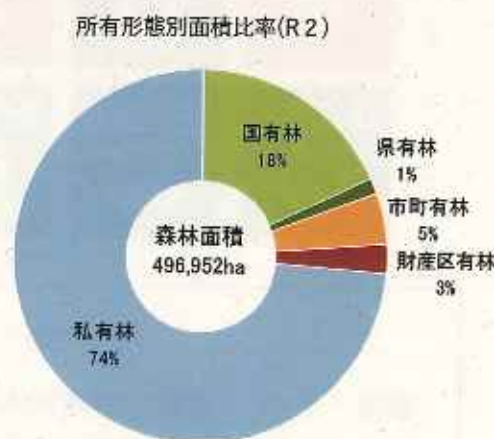
世代交代が進み、60歳以上の比率は年々下がっていますが、森林整備の担い手確保に向けて、若年層への働きかけが必要です。



■合意形成と連携

森林の7割は個人などが所有する私有林となっていますので、森林の適正な経営・管理のためには、所有者間や地域の合意形成等、森林の集積・集約化に向けて連携を図ることが必要です。

さらに、すべての県民が森林との関わりを深めることによって、しずおかの森林の働きが持続的に維持されます。



出典 令和2年度版静岡県森林・林業統計要覧



ふじのくに
森林の都
しずおか

SUSTAINABLE DEVELOPMENT **GOALS**



令和3年〇月発行 第15号

編集・発行 静岡県経済産業部森林・林業局森林計画課
住 所 〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6
電話番号 054-221-2613
電子メール shinrinkeikaku@pref.shizuoka.lg.jp
ホームページ <http://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-610/>



電子版と過去の
白書はこちら